

経営比較分析表（令和2年度決算）

神奈川県 横浜市

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
-	-	1	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和3年3月31日 横浜市風力発電所	令和9年8月12日 横浜市風力発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
アーバンエナジー株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H28	H29	H30	R01	R02
水力発電	-	-	-	-	-
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	1,527	1,929	2,922	2,275	2,284
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	1,527	1,929	2,922	2,275	2,284

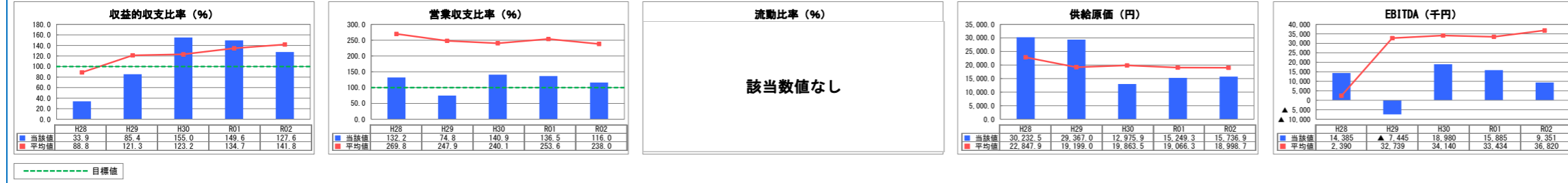
	F I T以外	F I T	合計
年間電灯電力量収入（千円）	14,079	-	14,079

剰余金の用途について（具体的な使用実績事業を記入してください）	
剰余金	102,562千円
今後	設備の老朽化への対応や設備更新に充当することを検討していきます。

分析欄

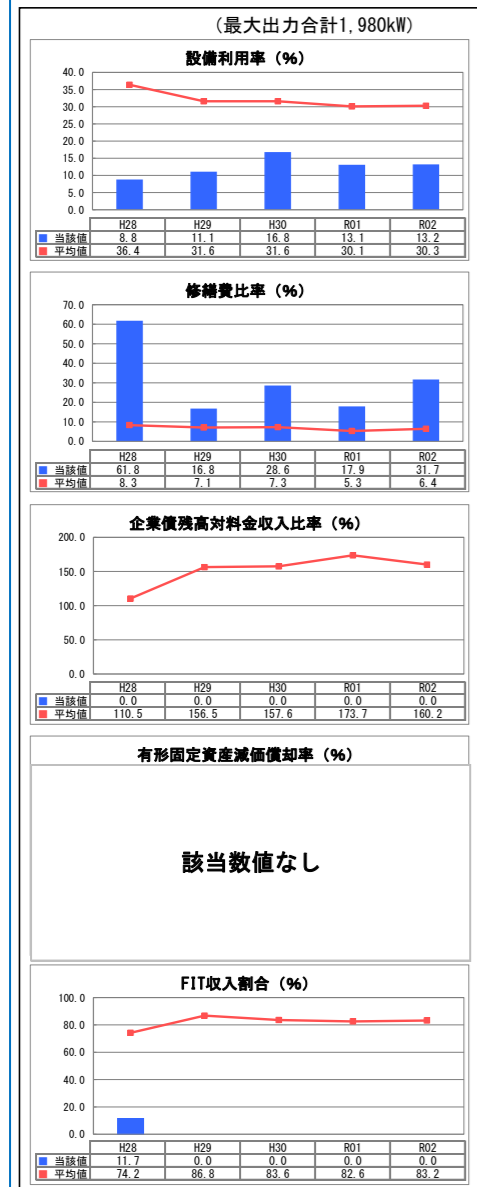
1. 経営の状況について
 本施設は、都市立地型の風力発電所として、再生可能エネルギー普及啓発のシンボリック事業として運営をしています。また、風力発電という性質上、収益の安定性が風況等の環境的要因により左右されますが、定期的な点検の実施や、主要部品の交換等を適宜行うことで、安定稼働を行っています。
 令和2年度においては、過去平均と比較し稼働状況は良好であり、概ね安定した事業運営ができていたものと考えられます。
 なお、建設に伴う費用に関して、28年度に市債の一括償還を行い、29年度に一般会計からの貸付金の償還を行ったため、収益的収支比率など経営の状況を表す指標は一時的に低調ですが、建設費は償還が完了しており、さらに剰余金も発生するなど、引き続き健全な事業運営を行っています。

1. 経営の状況

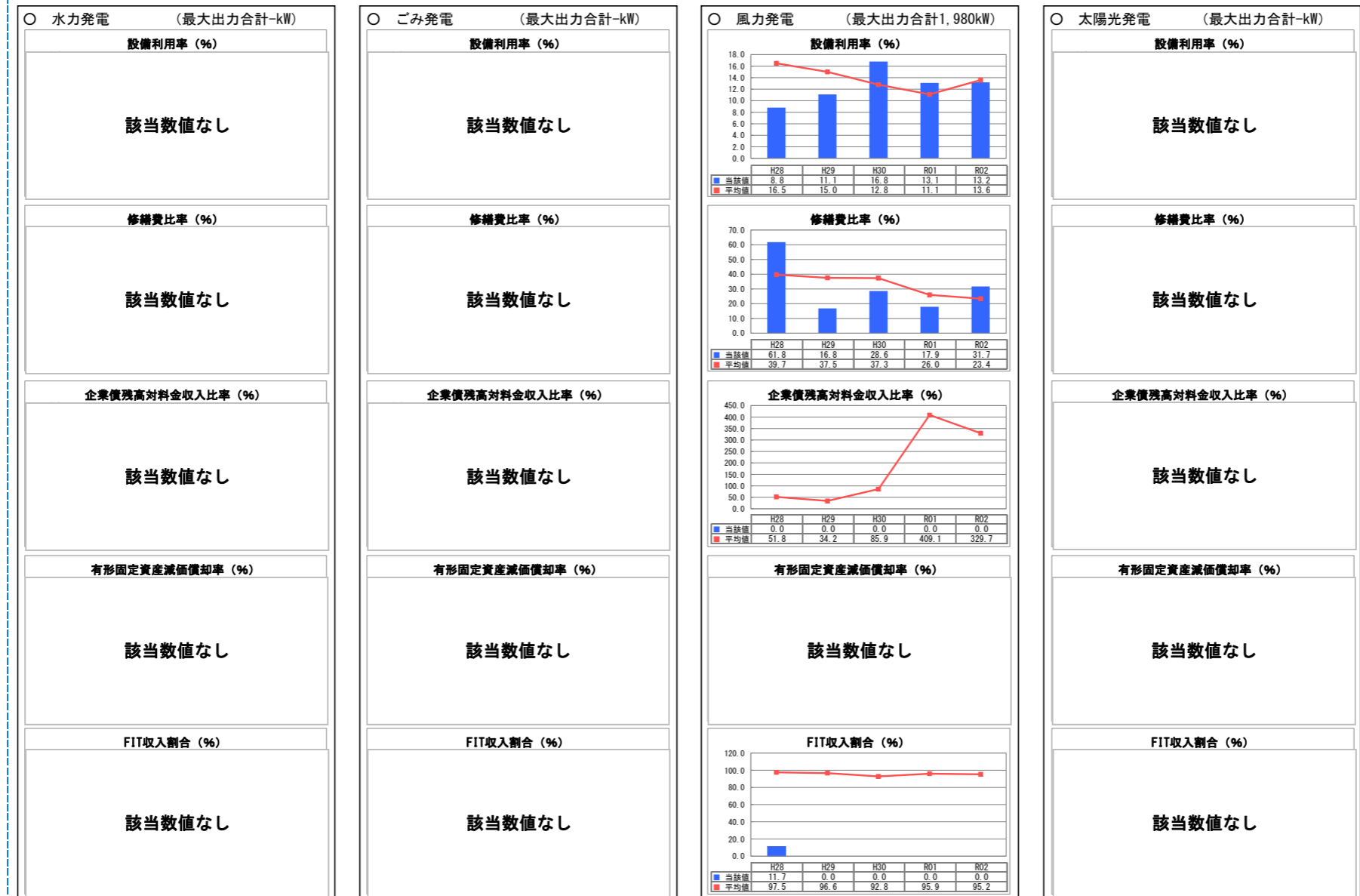


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

・設備利用率について、本施設は都市立地型の発電所であり、平均的な風力発電所よりも風況には恵まれておらず、例年は設備利用率は低めで推移していますが、令和2年度については過去平均と比較し稼働状況が良く設備の不具合も少なかったため、発電型式別の平均値と同程度となり、安定的に稼働しています。
 ・修繕費比率について、大規模補修のあった28年度以外は平均的な風力発電所よりも低く、概ね20～30%程度で安定的に推移しています。
 ・企業債残高対料金収入比率について、28年度に風力発電所建設に伴う市債を一括償還したため、それ以降0%となっています。
 ・FIT収入割合について、29年度より、再生可能エネルギー電気相当量のうち環境付加価値分は全てグリーン電力証書取引により使用しているため、0%となっています。

全体総括

都市立地型の風力発電所として、協賛企業との連携により、経営状況は概ね健全な状態であると考えられます。
 今後も、適正に維持管理を行い安定した経営を進めるとともに、再生可能エネルギーの普及啓発のため、事業運営に取り組んでまいります。

※平成28年度から令和2年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和2年度の団体数を基に平均値を算出しています。